

第34回全日本学生ライフセービング選手権大会「BLS アセスメント」について

第34回全日本学生ライフセービング選手権大会における「BLS アセスメント」の実施方法、採点基準、および評価と次の通りとしますのでご確認ください。

記

■ 実施方法

1. BLS アセスメントは、各チーム（男女別）からの任意制とする。出場登録選手が1名の場合は1名で行うこととする。（評価補助員を競技者Bとして競技を行う）。全てのチームが出場することを推奨する。
2. 競技者が他の出場種目の進行状況により指定された時間内に「BLS アセスメント」競技を行えない場合、あらかじめBLS担当審判員に申し出なければならない。原則として、事前の申告なしに指定された競技時間内に受付ができなかった場合、その競技者は失格となる。
3. 競技者は、チームユニフォームを着用の上、参加すること（水に濡れた状態での参加は認められない）。
4. 競技者は受付時に名前と選手番号を申告する。
5. CPR および AED は、レールダル社製 CPR 練習用人形および AED トレーナーを用いて行い、意識なし、普段通りの呼吸なし、頸椎損傷なし、途中回復なしの成人に対する処置を行うこととし、吹き込みはフェイスシールドを使用する。（別紙 G2015 フローチャート参照）。
6. 競技者 A・競技者 B の指定に関しては、競技開始時に BLS アセスメント評価員より伝える。
7. 競技者は、競技開始前に人形および AED トレーナーを使用して1分間の公式練習を行うことができる。公式練習中に器材の不具合が生じた場合は、速やかに BLS アセスメント評価員に申し出ること。
8. 競技の撮影については、競技後に各チームの振り返りや BLS トレーニングの参考目的であれば、チーム関係者に限り映像を撮影することを許可する。
9. BLS アセスメントの評価（競技結果）に対する抗議は受け入れられない。
10. この他、なんらかの理由で競技に問題が生じた場合は、審判長が検討し対応を判断する。
11. 競技日の翌日は、競技に参加したチームにフィードバックを行い、評価について説明する。
C 評価のチームは必ず参加し、手技の改善に努めること。また A、B 評価のチームもフィードバックを受けることを推奨する。

■ 採点基準

CPR および AED の処置は、以下のポイントを BLS アセスメント評価員の目視によって採点する。

- ① G2015 フローチャート（別紙、参照）通り、正しく進められているか。
- ② 胸骨圧迫（心臓マッサージ）、気道確保、人工呼吸の手技は正しく行われているか。
- ③ AED は正しく扱われているか。

■ 評価

競技者の CPR および AED の処置は、BLS アセスメント評価員によって、以下の 3 段階に評価される。

評価は以下の通りとし、チーム総合成績と並べて発表される。

評価	内容
A	良い (3つの採点基準が正しく行われていて、特に修正すべき点がない)
B	普通 (3つの採点基準が正しく行われているが、注意すべき点がある。)
C	悪い (3つの採点基準のうち、どれかひとつでも正しく行われていない)

(以上)